

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
勝山市	遅羽町比島	令和3年2月26日	年 月 日

1 対象地区の現状

①比島地区内の耕地面積	17.8ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	15.2ha
③地区内における60才以上の農業者の耕作面積の合計	9.3ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	7.4ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	3.7 ha
(備考)	

注1:③の「60才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

・農家の高齢化が進んでおり、現在耕作をしている農家のほとんどが60歳以上であり、後継者がいない農家が多い。
そのため、離農して認定農業者に預けた農家が多くある。

・杉林の間にある山間の農地は、湿田であり、麦、蕎麦などの転作はできない。また日当たりも悪く、獣害(熊、猪、猿)も発生しており、日中でも畑仕事に行けない状況である。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

・認定農家であるA法人へ農地を集積していく。

・認定農家が担ってくれない農地については、比島の土、風土に合う作物を探して、地域住民で作付をしていく。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農法	A法人	水稲	5.9 ha	水稲	10 ha	比島
認農	B	水稲	0.4 ha	水稲	0 ha	比島
計	2人		6.3 ha		10 ha	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p>・認定農家であるA法人へ高齢化や農機具が壊れたときには、比島の農地を担ってくれるように事前に協議しておく。</p>
<p>・比島の土、風土に合う作物を探していく。(エゴマ、セリ、果樹(梅)など)</p>